

平成23年2月24日

浜田市議会議長 牛尾 博美 様

議員名 三浦 保法 

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察をおこなったので、その結果を報告します。

記

- 1、期 間 平成23年2月2日～4日
- 2、視察地 佐賀県武雄市、長崎県長崎市
- 3、参加議員氏名

| | |
|-------|-------|
| 高見 庄平 | 牛尾 博美 |
| 中村 建二 | 道下 文男 |
| 三浦 保法 | |

4、精算額 54,223円

5、調査活動の概要

| |
|-----------------------------------|
| 会派の調査研究活動として、武雄市の最年少市長の政策及び市の機構 |
| 改革について。また、長崎市の水産分野について、2市での先進取り組み |
| 状況や、その成果について調査したのでその結果を別紙のとおり報告し |
| ます。 |



調査活動内容

1) 佐賀県武雄市

| | |
|------|------------------------------|
| 視察日 | 平成23年2月3日(木曜日) |
| 視察時間 | 9:30~11:30 |
| 場 所 | 武雄市役所、全員協議会室 |
| 出席者 | 武雄市長・・・樋渡敬祐 議長・・・・・・・牟田勝浩 |
| 調査目的 | 行政・財政改革について |

【調査内容】

(1) 行財政改革について

① 市長トップダウンによる改革の取り組みについて

市民病院の民営化に取り組みリコールされたが、再度首長として活躍している。

② 「具約42」による改革について

42項目の内16項目を達成、11項目がほぼ達成、15項目が遂行中で、達成率80%となっている。今後もスピード感を持って取り組んでいく。

③ 独自の活性プロジェクトによる改革の取り組みについて

平成19年度から毎年、組織の見直しを行い、市民ニーズに迅速かつ的確に対応するため、部・課を新設し組織の強化を図っている。

(2) 財政改革について

① 地域所得アップ戦略での改革の取り組みについて

レモングラス栽培において希少性の高さを活かし、1反当り40~50万円の生産収益を上げている。

② ブランド化戦略での改革の取り組みについて

減反による遊休農地や耕作放棄地で、一日の温度差が大きい中山間地の農地有効活用を図るため、市長の提案により農事組合法人「武雄そだちレモングラス」が組織化され、ハーブティーのレモン

グラスの栽培から、販売まで特産品として多様な商品開発に取り組まれた。【栽培】【収穫・加工】【販売】における第6次産業の一つとして、市を上げての取り組みがなされている。

【感想】

医師会と対立しながら市立病院を民営化し、医師や看護師の確保、医療関係の養成学校の併設などに勇気を持って新しい行政運営に取り組んでいる様子であった。

また、「できない」ではなく、「こうすればできる」と、職員がやる方向で市民に対し説明しているなど、首長の対応のスピード感と自信を持っている姿が印象的であった。

まちづくりとして、レモングラスのお茶など、新しいものをどんどん取り入れている勇気に賛同した。



物産センター



市長の熱弁



レモングラス農場



がばいばーちゃんロケ地

2) 長崎県長崎市

| | |
|------|---|
| 視察日 | 平成22年2月4日(金曜日) |
| 視察時間 | 9:30~12:00 |
| 場 所 | 長崎市役所会議室 |
| 出席者 | 副議長・・・中田剛 水産農林部長・・・溝口博幸 水産センター所長・・・多良敏男 水産振興課振興 係長・・・村瀬二美 |
| 調査目的 | 水産業の取り組みについて |

【調査内容】

(1) つくり育てる漁業の取り組みについて

後継者不足が問題となっていることや、生産人口の高齢化などの現状がある。そのようななか、長崎市も若者にとって魅力のある水産業となるよう取り組みを行っている。

- ① つくり育てる漁業を推進するため水産種苗の生産・供給について
長崎市水産センターは市内に2ヶ所あり、今回の視察は牧島での鯛の養殖で、PR事業としてのグラスボートに乗船し、橘湾内の船上放流を体験した。
- ② アワビ養殖の新種「ハイブリッドアワビ」の開発
エゾアワビとメガイアワビの掛け合わせで、成長が早く放流用として育てている。育苗生産は管理が難しく、採算的にも問題が多い。

(2) 魚価の付加価値アップの取り組みについて

- ① 雑魚や売れ残り魚を加工して、付加価値をつけ利潤を上げる方法を検討実施
- ② 「はも祭り」「タラフグ・かき祭り」「伊勢エビ祭り」など、漁業者・商工会・観光と連携したイベントの開催を実施

③ 加工業者の誘致

生産者と加工業者が連携した取り組み・・・(干しナマコを中国に輸出)

④ アンテナショップ等の活用

【感想】

長崎市は海岸線の周囲が日本一、沿岸漁業で獲れる魚種が豊富、煮干の加工業も盛んで全国一位と、水産業では羨ましい状況に見えるが、生産者の高齢化や後継者不足が深刻な問題となっている。

今回の視察をとおして、長崎市と同じように浜田市も深刻な魚漁問題を解消しなければならなくなる。先進の長崎市の取り組みを参考にしながら漁業の町、浜田市の活性化に取り組まなければならないと感じた。

以上



会議室での説明状況



養殖池



子鯛の放流



グラスボートにて